

令和4年度 第2回立山町総合教育会議 議事録

1. 開催日時 令和5年3月27日(月) 10時30分～11時30分
2. 開催場所 立山町役場4階 全員委員会室
3. 参加者 町長 舟橋貴之
教育委員会 教育長 杉田孝志
委員 久保田真砂美 向雅己 金川良子 堀田充
4. 事務局 企画政策課 山田真樹子 竹腰三佳 林達也
教育課 青木正博 田中幸生 坂田聖
教育センター 松田伸浩 林寺正芳
5. 傍聴人 1名

協議事項1

●令和5年度の小中学校での統一的な取組みについて

◇町長の発言

・「読み解く力」向上プロジェクトに関し、令和4年度教育センターに協力をいただき、東京へ視察に行っていたが、令和5年度についても多くの先生方に視察に行ってもらいたいと考えている。つきましては、令和4年度に実施した「読み解く力」の向上に向けた取組みの成果と令和5年度の小中学校での統一的な取組みについて、協議を行いたい。

◇事務局の発言

[令和4年度の取組みを終えてわかったこと]

- ・「児童生徒の実態に合わせて、できることから始める」ことが大切である。
- ・「言葉」を視点に、児童生徒の学びを育てていこうとする共通認識が必要である。
- ・「読み解く力」の個人差がとても大きいということを授業者が認識することが重要であり、教科書を読んでも理解しづらい児童生徒がいることを想定する。
- ・児童生徒が、「何となく正解や不正解とする」ではなく、「課題に適した答え方ができた」「ここが原因で間違った」等、自分自身で理解できることが大切である。
- ・「読み解く力」は、特別な力ではない。
- ・児童生徒が、どの分類(視点)で、つまずくだろうか(予想)、つまずいたか(結果)の分析が必要であり、授業者自身が、教科書や資料を、意識的に「読み込む」ことが大切である。
- ・タブレットや電子黒板等ICTを活用した勉強時間が増加し、子どもたちが鉛筆を持って、ノートに文字や自分の考えを書き連ねる機会が減少し、ノートのページ数が増えていない。「確実に集中して短時間でいねいに書く」という時間を増やしていくことが必要である。

[令和5年度の取組みについて]

- ・令和4年度の研究の成果を土台に各校の子どもの実態や課題を念頭に置きながら、「主体的・対話的で深い学び」が生まれる授業を目指す中で、子どもが自ら学び、自ら活かすことを支える「読み解く力」を一層育てていこうと考えている。
- ・教育センターでまとめた資料を活用し、指導の充実を図り、子どもの変容から指導の効果を継続的・多面的に確認する。
- ・町内小中学校のどの学年・学級においても「共書き」「視写」「聴写」を重点的に取り組むこととし、指導の効果や効果的な指導の在り方を町全体で共有する。

・授業公開においては、指導案に「読み解く力」を意識して「どのような手立てを講じるのか」という教師の意図を明確に示して授業実践に臨むことが必要である。

◇事務局の発言

・令和5年度「読み解く力」向上プロジェクトの実施について、視察費を予算計上し、公開授業は3校で実施することを想定している。
・RST(リーディングスキルテスト)についても、小学校5年生以上分と教員分の実施を想定している。

◇教育長の発言

・何か違うことを改めてやるのではなく、これまでの立山町の教育を土台に据え、「書く」ということに重点を置きながら、具体的には「共書き」「視写」「聴写」を取り入れて着実に力を付けさせ、「1人も取り残さない」ということを徹底して進めていきたいと考えている。

協議事項2

●コロナ禍・物価高による奨学金検討の生徒増加について

◇町長の発言

・先日、新聞に掲載されていた「コロナ禍・物価高による奨学金検討の生徒増」に関し、町では教育ローン返済応援条例は所得制限をやめたが、その他具体的にこういったことをすればいいという意見等があればありがたい。

◇教育長の発言

・学ぶためには、経済的な支援も必要であると認識し、今まで以上に子どもたちの様子を観察し、保護者、学校の教員からも情報を得たりして、できる限り情報を取り入れるよう努めてまいりたい。

[閉会時刻 11時30分]